

わたしたちは、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に反対し、強く抗議します。

2月24日にロシアの軍隊がウクライナへの軍事侵攻を開始したことで、多くの民間人の死傷者が出ており、そのため多くの人々が国内外への避難を余儀なくされていることが伝えられています。またロシア軍はチェルノブイリ原発をはじめ、原子力施設にも攻撃を加え、核災害の危機をも招いています。戦争に勝者はなく、攻撃する側とされる側の双方において最も傷つけられるのは、弱い立場に置かれた力を持たない人々です。わたしたちは、貧しい者、飢える者、悲しむ者と共にある主イエスに従い、今、戦火の下で傷つき、痛み、悲しみ、飢え、不安におびえている人々を覚えてこの攻撃に強く反対の声を挙げます。

隣国との軍事的緊張を高め、相手側の攻撃を偽って「自国防衛」の名の下に軍事侵攻を進める手法は、かつて日本の軍隊がアジア侵略に際して繰り返したことです。日本基督教団は、第二次大戦下にあって、他国を侵略した日本の戦争を是認し、支持し、勝利のために祈った罪を告白し、平和を実現する「見張り」の使命を正しく果たすことを表明しました。この立場に立ってわたしたちは、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に反対し、強く抗議します。侵攻が一刻も早く止められ、人々の命と生活がこれ以上犠牲にされず、ウクライナの人々のもとに平穏な日々が戻ることを求めます。

わたしたちは、内外のキリスト者、また平和を求める多くの人々と連帯して、この戦争に反対し、平和を取り戻すために祈り、行動してゆきます。

2022年3月15日

日本基督教団東京教区北支区
常任委員会
社会部
沖縄・韓国連帯委員会